

理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

TIMSS 2019の結果

▲「理科の勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合が国際平均を11ポイント下回るのをはじめ、「理科を勉強すると、日常生活に役立つ」「理科を使うことが含まれる職業に就きたい」も国際平均を下回っている。

研究員による実践の成果と課題

- 「科学的な探究の過程」を意識した授業が行われている。特に「観察、実験の実施から考察」と「振り返り」の部分が充実している。
- ▲指導方法や指導形態に重きが置かれ、育成すべき資質・能力や理科の有用性の実感などの教科の本質が軽視される傾向にある。

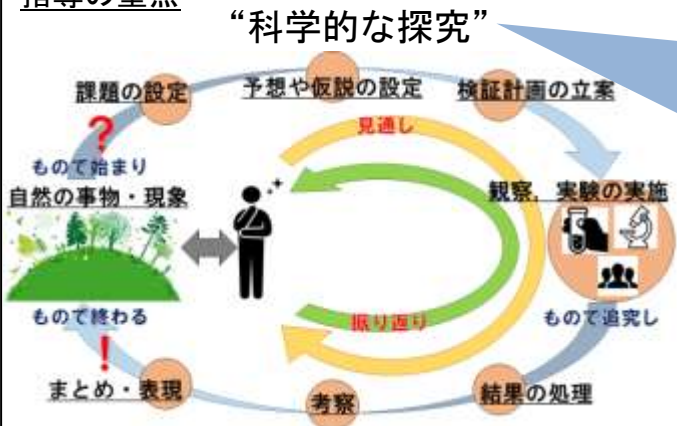
子どもの目線に立つ2022

- 令和4年度の調査では、理科の勉強が「好き」「大切」「将来役に立つ」と回答する生徒の割合が全国平均を上回っている。
- 平成30年度の前回調査よりを上回っていることから、岐阜県の研究の方向に一定の成果が見られる。
- ▲習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明することや多面的に考えることで、より妥当な考えに改善することについて課題が見られる。

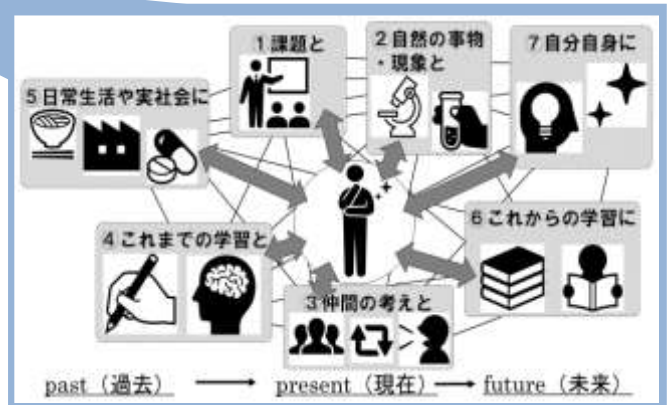
研究主題

「理科の勉強が好き・楽しい」と実感できる理科指導
～ “科学的な探究の過程” と “つなぐ指導” を通して～

指導の重点



“つなぐ指導”



研究の視点

- <教育課程>
 - ・育成する資質・能力を捉え、学習内容の系統性・発展性や科学的な探究の過程を明らかにした指導計画の作成
- <観察、実験>
 - ・課題に正対した考察をするために必要となる確かな事実が得られる教材・教具の工夫
- <学習・評価>
 - ・生徒が、自ら学習課題を設定することができる導入の指導
 - ・結果を図やグラフ・表などに整理して考察することができる指導
 - ・日常生活や実社会への適用を意図し、理科の有用性を実感できる終末の指導
 - ・自分自身の学びを自覚することができる評価の工夫
- <環境教育>
 - ・地域の人的・物的資源を活用するなどして、自然環境の保全に寄与する態度を育てる指導